

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	地理学概論A (Introduction of Geography A)		
ナンバリングコード	E11513	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 教職科目 / 基礎レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 前期
必修・選択区分	選択・教職 教職関係科目(選択必修): 中学校教諭一種免許状(社会) ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	EK00301	クラス名	-
担当教員名	土居 晴洋		
履修上の注意、履修条件	本授業の履修にあたり、高校在学中の「地理」履修の有無は問いませんが、自らが暮らす地域や世界各地で生起する諸事象に対して、日頃から興味・関心を持つように心がけて下さい。 正当な理由のない、遅刻・欠席・途中退席は認めません。また、座席指定は行いませんが、適切な間隔を空けて着席するとともに、授業に集中し、ディスカッション等の活動への積極的な参加を求めます。		
教科書	『新詳地理資料COMPLETE2021』帝国書院		
参考文献及び指定図書	適宜紹介する。		
関連科目	地理学概論B, 地誌学		

○基本情報			
授業の目的	自然現象や人文社会現象を時間と空間の枠組みの中で理解することが地理学の目的であることを確認し、複雑に変化を遂げる現代社会を地理学的視点から解釈するための理論や方法論を提示します。高校までの学校教育の「地理」の影響で、暗記科目ととらえられがちな「地理」のイメージを払拭するとともに、地理学的な見方・考え方の基礎を身につけ、身近な地域からグローバルな事象までを自ら観察し、読み解くことができるようになることを目指します。これは本学のディプロマ・ポリシーに謳う「自然や文化・伝統など幅広い視野」を持ち、「時代の変化を捉える」力を養うことも意図しています。 本授業単独でも地理学の全体像を体系的に理解できるような構成としていますが、『地理学概論B』と併せて受講することで、より地理学をより体系的に、またより詳細に理解できるようになります。		
授業の概要	地理学の概念や構成、見方・考え方を地図の読図技法など、地理学を学ぶうえで不可欠な項目を最初に学びます。本授業では人文・社会科学から自然科学にまたがって広がる地理学の領域を俯瞰的・体系的に理解できるよう、人間社会の諸現象の基盤である自然環境(地形、気候)のメカニズムを学びます。また、地理学的思考を特徴付ける事象の空間的把握を行うための地図・地形図の基礎を学びます。 その後、現代における第1次～第3次産業の諸現象の空間的特質とその形成メカニズムや背景的要因を考察していきます。また、本授業では、個別具体的な事象の事例を、主として日本国内の諸地域に求めることで、日常生活の学問として地理学を理解します。なお、取り上げるトピックによっては、諸外国の事例を取り上げることで、マルチスケールの地理学的思考力を養成します。		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」	
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	
	(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」	
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目		
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	日常的な事象を認識し、地理学的な関心を持つことができる。		5点	5点
【知識・理解】	地理学の概念や地理学の基本的な見方・考え方を習得している。	30点	5点	5点
【技能・表現・コミュニケーション】	基本的な主題図や統計資料の読解と考察を行うことができる。	20点	5点	5点
【思考・判断・創造】	地理学の見方・考え方をを用いて日常的な事象を考察することができる。	10点	5点	5点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
対面・オンラインの開講形態に関わらず、双方向授業を行うために、あらかじめ指定したページの教科書の予習が行われていることを前提にします。また、授業においては、教員側から受講学生に対する質問への回答や、逆に学生側から教員側への疑問や質問が出されるか否か、ディスカッション等の活動への参加状況も評価の対象とします。 ワークシートの末尾に、授業で理解したこと、疑問・質問を記入する欄を設けますので、授業において理解できなかったポイント等を記入して下さい。ワークシート内の課題の理解状況を把握したうえで、記入された質問を加えて、次回授業において補足説明を行います。	

○その他	
指定した範囲の教科書を授業前に読み、理解できることと、理解できないことを明確にして下さい。その際に、地図や写真、図表等から何が読み取れるかをよく考えて下さい。授業においては、理解できなかったことを積極的に質問して下さい。授業後はワークシートの課題や解説を加えた教科書の図表や文章を中心に復習を行い、疑問等は提出前にワークシートに書き込んで下さい。 授業において使用したワークシートは授業後にjpegまたはpdf形式でユニパ上に提出して下さい。授業で使用したワークシートは手元に残りますので、授業後の復習や期末試験への準備として活用して下さい。 ワークシートは別途、ユニパにアップしますので、やむを得ない理由で欠席した場合は、ダウンロードして該当するページの教科書とあわせて自習資料として下さい。	

## 2021年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	地理学概論A (Introduction of Geography A) 土居 晴洋	授業コード	EK00301
<b>学修内容</b>				
<b>1. 地理学とは何か</b>				
地理学とはどのような学問なのかを理解することを目的とする。「地理」は中学や高校において地理(地理的分野)として学んでおり、その時には地名や産物、地形用語などを暗記する科目というイメージがあったかもしれない。しかし、大学で講ずる「地理学」をそのイメージの延長で捉えることは適切ではない。現代の地理学は、人文社会科学や自然科学などの隣接諸科学と同列のサイエンスの一領域である。地理学の基本的な枠組み、ものの見方や考え方があることを、具体的な事例を通して理解する。				
	予習	高校までで学んだ「地理」の楽しかったところ、苦手だったところを振り返る。		約2時間
	復習	高校までの「地理」と大学で学ぶ「地理学」は何が同じで何が違うのかを整理する。		約2時間
<b>2. 地理学の構成と地誌学</b>				
地理学の研究対象は、日々の暮らしから地域や社会にある産業や文化といった人や社会に関わる事象に加えて、気温や降水などに組合せとしての気候や扇状地や段丘といった地形の特徴などの自然現象や自然災害など、極めて多岐にわたる。また、大分県や中国などの県や国家などの地域が持つ特徴に注目する地誌学も地理学を構成する重要な領域である。地理学が持つこのような対象の多様性を知るとともに、地理学として一つの学問領域を形成している必然性や論理を理解する。				
	予習	地理学の見方・考え方によって、自分の身近な地域の特徴を考える。		約2時間
	復習	講義を踏まえて、人文社会現象・自然現象から一つ選び、その時間的・空間的特徴について考える。		約2時間
<b>3. 地球上の位置・地図の種類</b>				
地理学において考察対象とする様々な事象について学ぶ前に、それらの事象が生起する「地球」をどのように捉えるのか、また地理学ではこれをどう表現するのかを学ぶ。「地球」は球体であり、自転と公転を続けていることが、様々な事象をどのように生み出しているのか、また今現在、我々が暮らしている大分が、その地球の中でどのような位置にあるかを理解する。さらに球体を平面に展開するために工夫を凝らしてきた地図の図法の特徴について理解する。				
	予習	教科書8-11ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>4. 地形図の読み取り</b>				
地図の概念を理解したうえで、その一つである地形図の読み取り方法を学ぶ。高校までで地理を学ぶ際に、地形図の読み取りを苦手とする生徒は少なくない。その多くは、二次元平面に表現された情報を頭の中で立体的に再構成することに困難を感じることに由来する。本学周辺の地形図を題材にして、等高線と実際に土地の凹凸などの対応関係を確認し、地形的情報を読み取るコツを習得する。また、豊富な地図記号が地域の持つ様々な情報を与えてくれることを知る。				
	予習	教科書36-39ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>5. 様々な地形</b>				
本学が立地する大在地区や隣接する鶴崎地区は大野川河口部に形成された扇状地に立地する。また温泉観光地と有名な典型的な扇状地である。私たちの身の回りには、教科書に掲載されても不思議ではない地形が多数存在する。段丘や乾燥地の地形などを含めて、代表的な地形について、その形態と形成メカニズムを理解する。また、身近にあるこれらの地形は単に教科書にある存在ではなく、我々はその地形的な特徴を理解し、歴史的に利用・活用しながら暮らしを成り立たせていた。				
	予習	教科書24-33ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>6. 気候のメカニズム</b>				
私たちは1年が四季で構成されており、それぞれの気温や降水量の組合せとしてある春夏秋冬が順序よく繰り返すことをに何の疑問も持っていない。しかし、そこにはそのような気候が生み出されるメカニズムがあり、我々の生活は自らが暮らす地域の気候に順応して営まれている。このような気候のメカニズムについて、地球規模のスケールでは大気循環として、また身近な地域の気象については、大気の動きと地域的な地形的条件との関わりとして理解する。				
	予習	教科書40-45ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>7. 日本の農業</b>				
人口減少が進む日本において、近い将来の農業をどのように維持・発展させるかは極めて重要な課題である。農業は地域の持つ自然環境に強く制約されるため、同じ日本の中でも、地域によって農業の在り方は大きく異なるとともに、抱える課題も多様である。様々な課題の解決を目指す国家的な政策による成果が見られる場合もあれば、そのような努力にも関わらず解決が困難な課題もある。そのような中で、多くの地域で特色ある農業を模索する動きが見られる。				
	予習	教科書121-123ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>8. 日本の林業・水産業</b>				
国土の大半は森林に覆われ、さらに四方が海に取り囲まれている日本において、林業と水産業は農業以上に重要な産業といえるのかもしれないが、それらの現状は農業以上に厳しいと言わざるをえない。林業・水産業の経年的、地域的な状況を概観することで、どのような課題がなぜ存在するのかを理解する。わが国の国家的な林業・水産業政策の変遷とも絡めながら、両産業の将来を展望したい。				
	予習	教科書124-127ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	地理学概論A (Introduction of Geography A) 土居 晴洋	授業コード	EK00301
<b>学修内容</b>				
<b>9. 工業の発達と立地</b>				
産業革命は単に工業の発達を促したことに留まらない影響を人類に与えたが、製造業を中心とする工業の発達は世界的な規模で社会や暮らしのあり方を一変させた。現代の工業製品には様々な種類があり、それぞれ技術革新と国際的な国際的・国内的な地域間連携がその発達の鍵を握っていた。日常的には、手元にある工業製品しか見ていないが、手元に届くまでに多くの工夫の積み重ねがあり、国際的なモノや人、情報の流動の中で作られていることを理解する。				
	予習	教科書146-149ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>10. 日本の工業</b>				
大分市は県庁所在都市であるが、工業都市と呼んでもよいほどに工業機能が充実しており、本学が位置する大在地区は工業都市である大分市の一角を担っていると言っても過言ではない。工業は原則的には原料産地と消費地との位置関係において立地場所が決定されるが、現実的には地域の歴史や国家等による政策などが影響する。具体的な製造品の製造プロセスや立地決定要因を考察することを通して、日本の各種工業の特色と立地における地域的な差違と共通性を理解する。				
	予習	教科書176-180ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>11. 交通の発達と情報化の進展</b>				
前時までの工業や商業、また後時の人口移動や都市のあり方の基礎にあるのが、交通の発達と情報化の進展である。人や物資、情報の空間的流動を担う陸海空の交通や情報通信技術の変化や発展は、21世紀に入ってさらに速度を増しているように感じられる。これらの変化や発展を貫く原理は、大量化・高速化・多様化にある。このような大量化・高速化・多様化がどのように進められ、その結果、地域や社会、世界がどのように変化してきたのかを考える。				
	予習	教科書186-191ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>12. 第3次産業の発達</b>				
我々の日常生活で購入・利用する財やサービスを提供する第3次産業について考える。特に、20世紀後半から現在にかけて、小売業の変化はめざましい。現在では当たり前となっている小売業のあり方が、いつ・なぜ・どのように変化してきたのか、また小売業を含む物流のあり方の変化が地域に対してどのような影響を与えたのか、さらにグローバル化する現代世界において余暇や観光の現状と課題を理解することは、近い将来の第3次産業を考える基礎となる。				
	予習	教科書181-185ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>13. 集落の立地・村落の機能</b>				
集落に注目することは、私たちの暮らしが自然環境や地域の歴史や文化と強く繋がっていることを理解させてくれる。現代のように土木技術が発達していなかった時代においては、人は周辺の自然環境を詳細に把握する能力を持っており、より安全で、より豊かな暮らしができる場所を選定していた。その結果、そこに人が集まり、集落が形成された。代表的な集落の立地や形態を学んだうえで、本学が所在する大在地区における集落の特徴を自然環境と歴史の側面から読み解く。				
	予習	教科書202-203ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>14. 都市の発達と地域構造</b>				
多くの人が都市に暮らす現代社会では、都市とは何かを理解することが重要である。なぜ都市が生み出されたのか、どのような都市があるのか、地域による都市のあり方に違いはあるのかについて考える。また、世界には無数の都市があるが、その空間的配置や階層には規則性が見られる。一つの都市を取り上げると、都心から郊外に向けて広がる地域構造が見られ、そのことが私たちの日常生活を様々な側面で規定していることを理解する。				
	予習	教科書204-207ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>15. 日本の都市発展と居住問題</b>				
わが国の都市発展の歴史と地域的特質を概観する。都市は人口が集積することで発生するが、その集積した人口が居住するためには、住宅や上下水道などが欠かせない。そのようなインフラストラクチャーや様々な都市施設の整備は、民間部門ばかりでなく、国や地方政府による政策が後押ししている。都心部の衰退など、わが国ではその時々に取り組みられた都市の課題に対して、どのような政策によってその解決に取り組んできたのかを跡づけたい。				
	予習	教科書213ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		約2時間
	復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		約2時間
<b>16. 期末試験</b>				
期末試験				
	予習	教科書および授業内容をしっかり復習する。		
	復習			